

火災及び大規模地震発生時の被害事象等の相違点

		火 災	大規模地震
被害事象	建物内の被害の形態	通常、火元は一ヶ所 また、自動火災報知設備等により比較的覚知しやすい	火災だけでなく、建築構造・設備の損壊や機能停止、落下物・転倒物による被害が発生 被災箇所が同時多発的で広範囲
	時間変化	通常、火元から徐々に拡大し、深刻な被害を生ずるまでに一定の時間を要する また、防火区画、防火設備、排煙設備により、火災の影響範囲は限定的	発災直後に一瞬で被災 また、出火した場合には、防火区画等の被災により、急激に延焼拡大するおそれ
	ライフラインや周辺の被害	建物内の停電等は想定されるが、限定的	建物内のほか、地域全体で停電、断水、通信障害、交通障害が発生 また、被災地域では、建物倒壊や火災が多数発生
			
事業所における初動対応	応急活動の内容	初期消火、通報連絡、避難誘導、救出救護など	通常の火災時に必要な対応に加え、人手による全体の被災状況の確認、停電・余震などによる不安や恐怖感の排除（パニック防止）、転倒物等からの救出救護、エレベータ停止に伴う閉込め対応、出火した場合の迅速な初期消火、広範囲に危険が及ぶ場合の全館避難
	応急活動の手段	消防設備、避難施設、非常用エレベータ等を活用	消防設備、避難施設、非常用エレベータ等が損壊や機能停止により使えない可能性がある 停電、断水等のため、上記施設・設備や照明器具等が機能しない可能性がある
	従業者等の召集	夜間休日の場合でも、比較的駆け付けが容易	夜間休日の場合、指揮者・隊員の駆け付け困難
	活動時間	消防機関は、通報による火災覚知後、速やかに現場へ到着し、消火や救助、救急搬送等を実施	消防機関の迅速な活動を期待できない可能性がある → 事業所単独の対応が長期化